

## 研究主題

# 豊かな「つながり」を大切にした、深い学びのある体育学習

奈良県小学校体育研究会 指導法研修会 陸上運動部会

第3回陸上部会 2019年11月25日（月）

〈授業者から〉

トラックの使い方について、ゴールやスタート、バトンパスの位置をどのようにするか悩んだ。また、チーム編成についても悩んだ。チームについては4人チームにして兄弟チームをつくることにした。4人にする事で一人の走る距離は40mに設定した。

本単元を始めた頃の様子として、これまでバトンパスの仕方を意識してこなかった児童が多いように感じた。一つ一つのポイントに着目させながら、少しずつバトンパスの仕方を学ばせていった。

基準タイムはつくってみたものの、なかなか切ることができなかった。子どもたちからカーブがあるからタイムが遅くなるのではという意見があったので、もう一度カーブを含む40m走の記録を計り直して基準タイムを設定した。

本時では、前を向いてバトンをもらうこと、そして「はい」の声で手を出すことを意識させて学習を行った。

〈グループ協議〉 ※赤A・赤B・青A・青B・黄A・黄Bの6グループによる協議  
(赤A)

- ・本時の課題は徹底できていた。
- ・滑らかなバトンパスについて、もらい手が手を出すタイミングがばらついていて、また、それに対するアドバイスも少なかった。1走→2走や2走→3走など、個別の練習があっても良かった。ペットボトルの位置の調整がもっとあっても良かった。
- ・思考力・判断力について、何を話し合ったらよいかわかっていない児童もいた。それぞれのチームの課題を全員が把握できていなかったのではないかな。
- ・教師の声かけの後から、チーム練習がしっかりできていた。直線バトンパスからランニングバトンパスを行ったチームは、練習メニューが逆でも良かったのではないかな。

(赤B)

- ・兄弟チームで得点を競い合っていたところが良かった。
- ・チーム練習の際に本時の課題からそれていたチームもあったように思う。
- ・バトンゾーン（10m）について、真ん中から走り始めてオーバーゾーンになっているチームもあった。兄弟チームで見合いをするときに、それぞれの課題をしっかり把握できるような仕掛けや声かけがあっても良かったのではないかな。

(青A)

- ・男女の別なく、みんなでタイムを縮めるためにしっかり話し合いができていた。
- ・チーム練習の際に、兄弟チームで見合いながら練習をさせても良かったのではないかな。
- ・時間配分をもう少し工夫して、時間内に終われると良かった。運動量の確保も考えるべき。
- ・一人一人の児童が、課題を把握できていたかどうかが大切。ポイントを絞って見合いができればもっと良かった。
- ・結果についてもっと意欲が出てくれば、課題をもっと意識できるのではないかな。
- ・本時の課題については、単元のもう少し前半の方で意識させていきたい。
- ・「右で渡して左で受ける」という動きをどのように説明していったのか。逆でも良かったのではないかな。

→計画の段階から迷っていた。それぞれのメリット・デメリットを調べていく中で、利き手で渡すことができることやスタート直前まで後ろを見やすいことなどからこの形にした。

- ・ダッシュマークをどのような距離から始めていったのか。

→とりあえず10歩から様子を見させて、調整をしていった。

- ・テイクオーバーゾーンをどのように意識させていったのか。

→理解が低い(テイクオーバーゾーンを意識していない)児童が多かった。バトンパスを意識してほしかったため、あまり時間をかけなかった。

(青B)

- ・ほとんどの児童が前を向いて、バトンの受け渡しができている。カーブがあることで前を向く意識が高まったところもあるのではないかな。
- ・全体で良かったポイントを共有できたことは良かった。
- ・タイムや得点をもっと高めたいという意欲をもたせたかった。

(黄A)

- ・子どもたちが男女関係なくしっかり話し合いができていた。
- ・思考力・判断力・表現力に関しては、意見交流がよくできていた。友達の課題をしっかり見つけようとしていた。
- ・技能ポイントについて一人一人が明確に意識できていなかったのではないかな。どの練習がどのポイントにつながってくるのかという確認を練習前に行ってほしかった。
- ・指導案の中にあるバトンパスのポイント4つの中にある「姿勢を低くする」ことは必要なのだろうか。

(黄B)

- ・課題設定について、子どもたちがよくできていたので、もう少し高い課題を設定しても良かったのではないかな。
- ・話し合いがなかなか活発にできなかったチームがあったので、課題をもっと意識させれ

ば話し合いももっと活発になったのではないか。

- ・それぞれのバトンパスをしっかりと見て、具体的なアドバイスをすることができている児童もいた。
- ・ポイント制では、マイナスになっているところがなかったので設定が良かった。また、セパレートコースにしたことで、接触がなくて良かった。

<研究主題に関わって>

(赤A)

○子一子

- ・相手に遠慮せずアドバイスができていた。課題が明確だったら更に言えていたと思う。
- ・終わった瞬間に考えを伝えられる時間があれば良かった。
- ・ICTも活用できれば良かった。

○子一教

- ・苦手な子が目立たなかった。

(赤B)

○子一子

- ・兄弟チームで見合うのが良かった。
- ・走った後すぐにアドバイスできれば良かった。

○子一運

- ・チームの中で得意な子と得意でない子を考慮して走順を考えると、よりよいタイムにつながる。

○子一教

- ・見学の子が他の子にアドバイスなどをできれば良かった。
- ・バトンパスでスピードをつなぐ、テイクオーバーゾーンの使い方を意識させたい。

(青A)

○子一子

- ・課題を理解するためには友達に見つけてもらう。見つける子は、見る視点をもつことが重要。
- ・バトンパスはスピードを落とさずにもらえるようにしたい。
- ・ポイント制によって、苦手な子も自分の努力でチームに貢献できて良かった。

(青B)

○子一教

- ・苦手な児童が目立たなかったのは、教師の声掛けが良かったからだと思う。

○子一子

- ・「先生から子どもに伝え、子どもから子どもに伝える」という流れがあると、スムーズにアドバイスが行える。

(黄A)

○子—子

- ・互いにアドバイスができていて良かった。

○子—運

- ・課題がどの練習とつながっているのかを明確にしたい。

○子—教

- ・苦手な児童に配慮し、セパレートコースを設けたのが良かった。子どもと教師の信頼関係が感じられた。

(黄B)

○子—子

- ・兄弟チームでしっかり伝えようとする姿勢が見られた。

○子—教

- ・運動が苦手な児童に対し、ポイント制で行えたのが良かった。

<授業者より>

- ・授業前に騒ぎすぎたらダメだと念押ししたので、盛り上がりにかけてしまったのかも知れない。

<岩垣先生からの指導助言>

- ・意欲的に学習を行っていた。5時間の学習で高まりが感じられたのは、単元導入時の工夫による成果も大きい。
- ・コース等、学校の設備面を最大限に生かした場の設定ができていた。また、児童の意見を取り入れて学習を行っていた。
- ・日本代表選手の動画を見せる等、児童の意欲を高める工夫ができていた。
- ・セパレートコースを作成するためのトンボは、他の学校においても使える教具でとてもよかった。
- ・授業の途中で、技能のポイントに基づいた動きを共有する時間は大切であった。
- ・総得点を出したのは今日で2回目であったが、どのチームも基準タイムより速くなっていて、技能の高まりが感じられた。
- ・チーム対抗リレー後には、児童がホワイトボードの前に集まって記録を気にしていた。タイムの伸びを得点にすることで、児童の意欲を高めることができていた。
- ・チームの課題に即した練習において、自分のチームの課題は何かを確認できていないところもあったのではないかな。
- ・学習カードにメモしたことをもとに、話し合いをすることができればよかった。学習カードを使って思考力・判断力・表現力を高める授業にできたのではないかな。
- ・時間がなかったが、振り返りの時間は欲しかった。この時間に自分が何を学習するかを

意識することで、モチベーションも変わってくる。授業の終わりに、めあてが達成できたかどうかの振り返りの時間があればよかった。